

# 景観こぼれ話

## 臨海工業地帯のダイナミックな風景

戦後紀の川の改修とともに和歌山本港が整備され、紀の川河口周辺に大規模な臨港工場が建設されました。昭和30年代以降は埋め立てによって、和歌山本港は鉄鉱専用、和歌山南港は木材専用の工場地帯となり、高度経済成長期の市の発展を牽引しました。

これらの工場地帯では、重厚な岸壁越しに大規模な工場が立ち並び、煙突の鮮やかな赤や工場やタンクの淡いパステルカラーなど、普段目にする事の少ない色で彩られています。また、大きなトラックやタンカーが行き交い、動きのある景観をつくりだしています。

このように、活力を感じさせるダイナミックな景観を目にすることができます。



上：紀の川河口大橋からの眺め  
中：和歌山港を行き交う船  
下：紀の川河口付近の風景



## 和歌山市のマリンスポーツ

海と交わる紀の川河口では、海との関わりのある風景が見られます。

市堀川や築地川には、ボートの係留場が整備されており、たくさんのボートが整然と並んでいます。海へ出て、釣りを楽しむ様子が想像できます。

臨海部は工業だけでなく、海を楽しむライフスタイルの場でもあり、それが景観に表れています。



築港地区北側にあるボート係留場の様子



# わかやまし 景観ガイド

魅力  
満載!

上：工場の風景 下：ボート係留場

## 臨海部地域の景観

臨海部地域は、紀の川河口などを含む、海に面したエリアです。

海沿いには大きな工場が立ち、タンカーや船が入り出る港湾などがあります。

製鉄所や化学工場などが和歌山市の産業を牽引する一方で、市民の静かな生活を守るべく、緑豊かな緩衝緑地が存在しています。

現在海岸線は埋め立てられていますが、かつての砂浜を思わせる松林が水軒川沿いに残っています。



### 問い合わせ先

和歌山市 産業まちづくり局 都市計画部 都市再生課

〒640-8511 和歌山市七番丁 23 番地 Tel(直通): 073-435-1048



# 魅力マップ

～臨海部～

## 水軒川

紀の川から分かれて、和歌山港の近くを南北に流れる穏やかな川で、現在は整備され約440mの遊歩道となっています。  
ハナミズキが植えられ、地元自治会により大切に育てられています。



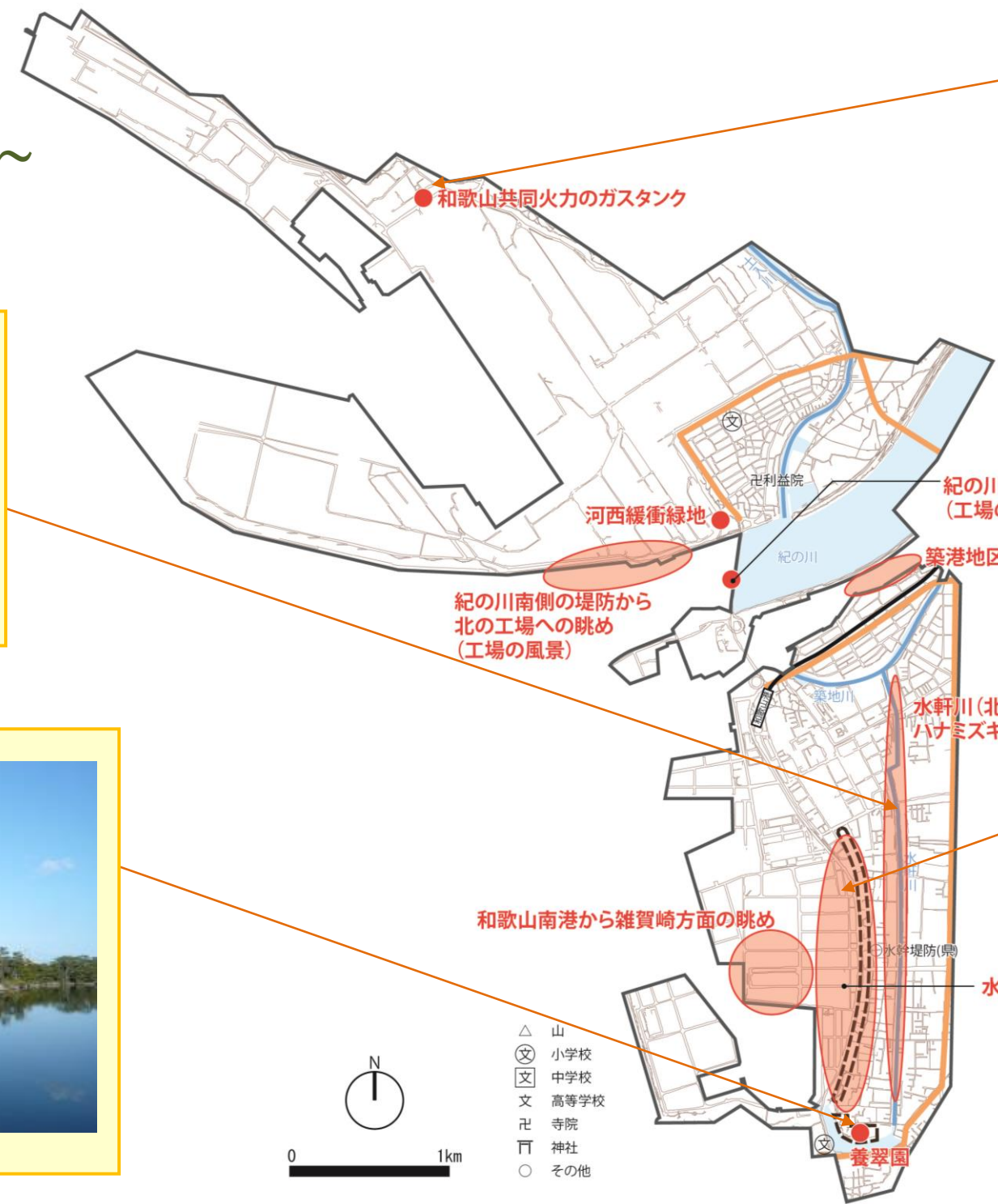
## 養翠園

紀州徳川家十代藩主徳川治宝により造営された松を中心とした、敷地面積約7,000坪、池が3,500坪におよぶ大名庭園です。  
明治維新前までは五十五万五千石の大藩として、また、御三家の一つとして誇った旧藩主の遺跡として、旧地に旧状のままよく保存された庭園と建物で、文化財として国指定名勝の指定を受けています。

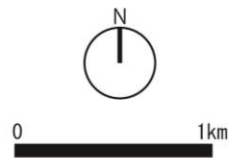


## 和歌山共同火力のガスタンク

ガスを一時的に貯めておく設備で、巨大な球形をしています。周囲の建物より大きく、遠くからでも一際目を惹く存在です。  
そのため、方角を知る手がかり、目印となっています。  
(関係者の間では、ガスホルダーと呼ばれています)



- △ 山
- ⊗ 小学校
- ⊗ 中学校
- ⊗ 高等学校
- 卍 寺院
- 卍 神社
- その他



和歌山共同火力のガスタンク  
河西緩衝緑地  
紀の川南側の堤防から北の工場への眺め (工場の風景)  
紀の川河口大橋からの眺め (工場の風景)  
築港地区北側のボートの係留場  
水軒川(北の方の整備したところ)・ハナミズキ(住民が管理)

## 水軒浜

松林が再生されつつある水軒浜では、市民団体により、遊歩道やフィールドアスレチック、ドッグランが整備され、和歌山市民の憩いの場となってきました。  
江戸時代に築かれたという「水軒堤防」があり、他に類を見ない精緻さと、和歌山城の石垣に劣らない美しさであると評価されています。



## コラム 水軒浜の再生物語

水軒浜はかつて遠浅の海に続く砂浜で、松林が2キロほど連なっていました。白砂青松の美しい風景が広がっていたといいます。  
工場団地として活用するために、昭和38年から埋め立てが始まり、砂浜はなくなり、またその後松林も荒廃が進みました。  
こどもの頃遊んだ思い出のある松林を取り戻すことを目標に掲げ、市民団体「水軒の浜に松を植える会」が生まれ、2013年には南北1,7キロの整地と松を植樹する活動が完了しました。  
松が成長し、また美しい松林が見られる日が来ることでしょう。

上：昔の水軒浜の様子（「水軒の浜に松を植える会」提供）  
下：現在の水軒浜の様子



## コラム 海辺の貯木場

和歌山県は木材の一大産地で、和歌山市の海沿いは、切り出した木材が集められてくる場所でした。水軒川などの河川が、右の写真のように一時的に木を置いておく貯木場として利用されていました。水上に保存すると、乾燥などを防ぐことができます。  
南港は木材が集積する拠点として、たくさんの木材関連の工場がありました。時代も移り変わり、現在では色々な種類の工場が集まる産業団地となっているものの、今でも材木置き場などを見つけることができます。

上：貯木場として利用される水軒川（昭和30年頃）  
出典：「ふるさと和歌山市」（郷土出版社、2009）  
下：南港周辺の貯木場の様子

